

教室の外の日本語学習に関する調査研究（一）

アンケート調査を通してみるドラマ視聴の場合

北京師範大学外国語学院 劉 玲

0. はじめに

第二言語の学習としては、大きく教室における学習（授業を通しての学習）と、教室の外における学習の二つに分けられる。日本語の場合も同様であろう。教室はいつも日本語に触れる環境となっており、教師側も学習側も教室における学習のほうを大切にしてきた。

ところで、教室の外における日本語学習はここ数年大きく変わっているように感じている。授業中、文末表現に男女の差が存在することを説明する時、例えば男性は「日曜日ダヨ」とか「元気ダヨ」を使い、女性は「日曜日ヨ」「元気ヨ」を使うのが普通だと言ったら、「今見ているドラマのヒロインの女の子は、よくダヨを使うけど……」と、学生の一人から質問されたのである。最近、日常茶飯事のように中国語のサイトから日本のドラマをダウンロードして視聴する学生が少なからずいる。ドラマだけではなく、アニメや映画や歌などもある。また、インターネットで日本語の新聞や雑誌を読んだりする学生も多い。10年ほど前なら、どこの大学においても見られないことだろう。

このように、日本語を含む外国語の学習は新たな時代を迎える現在、学習者は教室の中だけの人間ではなく、教室の存在する社会の中に日本語と関わっているという学習者になっている。これにしたがって、現場の教師にとって、テキストにある日本語を教室の中でどううまく教えるかということだけではなくなる。教室の外では学習者はどのようにしてどんな日本語に触れているのかを、教師が深く追求しなければならない。

教室の外の日本語学習を視聴に関する場合と読解に関する場合に分けられると考える。本稿では、視聴の場合におけるドラマ視聴に注目する。具体的に、アンケート調査を通して、普段学習者がどのようなドラマ資料を、どのようにして視聴しているかを調べる。

1. ドラマ視聴の場合を取り上げる理由

ドラマ視聴の場合に注目するのは、ドラマは学年を問わず最も一般的に視聴されているものだということが、次に紹介する教室の外における視聴学習の状況に関するアンケート調査によって明らかになったからである。この調査（選択式アンケート）は、筆者が教室の外において日本語学習のために日本語が使われている視聴物との接触の状況を中心に、本学外国語文学学院日本語専攻の二年生、三年生、四年生を対象として行ったものであ

る。本稿で使うドラマ視聴の場合に関するデータがその一部である。

その際、三学年を合わせて計 41 名の学習者から回答票を回収できており、うちに二年生は 14 名で、三年生は 17 名で、四年生は 10 名である。⁽²⁾ただ、二年生 14 名中 1 名が無効回答をしているので、有効回答は実際 40 名である（調査対象の情報は表 1 を参照）。

表 1 調査対象の情報（有効回答のみ）

	中国出身者 (男/女)	韓国出身者 (男/女)	イギリス籍香港 出身者(男/女)	平均 年齢	計
二年生	11 名(2/9)	2 名(0/2)	0	19.62	13 名
三年生	16 名(3/13)	0	1 名(1/0)	20.65	17 名
四年生	10 名(1/9)	0	0	21.40	10 名

調査の内容としては、まず、(一)よく視聴する順によって上位 3 タイプの視聴物を記入し、また、その内容や名前を具体的に書く。次に、(二)それら 3 タイプを視聴する目的・方法・効果・経験・媒介及びドラマ資料の入手手段・時間といった 7 つの質問について、それぞれ該当する選択肢を選ぶ（詳細は 2 節を参照）。それで、(一)のデータによると、次の二点が明らかになった。

- ・ 三学年を通して延べ 8 タイプの視聴物、すなわちドラマ・アニメ・映画・歌・教育系（テレビ番組）・ニュース系（テレビやラジオ）・エンターテインメント系（テレビ番組）・教材系（授業以外の教材の録音資料）が上位 3 の中に挙げられている。⁽³⁾
- ・ ドラマ・アニメ・映画・歌の 4 つが各学年に共通するタイプと見られる。特に、ドラマについては、学年ごとにそれぞれは 13 名中 12 名、17 名中 16 名、10 名中 9 名の学習者がそれを上位 3 タイプの中に挙げている（表 2 を参照）。

表 2 上位 3 タイプの視聴物及び学年ごとの視聴状況

	ド ラ マ	ア ニ メ	映 画	歌	教 育 系	ニ ュ ー ス 系	エンター テイメン ト系	教 材 系
二年生 13 名	12/1	12/0	12/1	3/9	0/3		0/2	
三年生 17 名	16/0	13/4	9/6	10/7	3/10	0/5	0/3	
四年生 10 名	9/1	3/5	7/2	5/5	0/2	3/2	2/2	2/0
計	37/2	28/9	28/9	18/21	3/15	3/7	2/7	2/0

（ / 線の左はそのタイプを上位 3 の中に挙げた際の学習者数で、その右は 3 以下の順位に挙げた際の学習者数である ）

つまり、ドラマは学年を問わずほとんどすべての学習者によってよく視聴されており、ドラマ視聴がごく一般化しているということがわかった。したがって、本稿では、まずドラマ視聴の場合に注目する。その他のタイプの視聴物については、稿を改めて考えたい。

2. ドラマ視聴に関するアンケート調査の質問

ドラマ視聴は教室の外における視聴学習の状況に関するアンケート調査の中に含まれていることが前節の冒頭に述べたとおりである。当時は視聴状況の全貌を把握しようとして

質問(一)と(二)を考えたが(前節を参照)以下にその内容を具体的に記しておく。なお、わかりやすく論を進めるため、ドラマの場合に合わせて表現を改めたところがある。⁽⁴⁾

表3 アンケート調査の質問

(一) 視聴するドラマの内容や名前を具体的に書きましょう。

(二) 以下の質問に答えましょう。

問い1 ドラマ視聴の目的や動機づけ：最も重要な目的や動機づけを次の選択肢(9項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に記入しましょう。

授業で習った語彙、文法、表現などを確認して、理解を深めたい

発音・アクセント・イントネーションをきれいにしたい

新しい語彙、文法、表現などを覚えたい

聞く・話す力を伸ばしたい

もっと日本語らしい表現を習いたい

語感を養成したい

日本語自体だけでなく、日本の文化や社会事情などへの理解を深めたい

特にはっきりしない

その他： _____

問い2 ドラマ視聴の方法：視聴する際にどのようにしているのか。最もよく使う方法を次の選択肢(7項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に記入しましょう。

特に何もしない。ただ見たり聞いたりするだけだ

分からない時、メモに書き残して、辞書などで調べたり先生に聞いたりすることがある

聞き取れなかったりする時、何回も繰り返して聞いたり見たりする

面白い語彙や表現、言い回しなどをメモに書き残しておく

たいてい、その音声に倣って言うようにする

母国語に訳してみることがある

その他： _____

問い3 ドラマ視聴の効果：ドラマ視聴を通して自分の勉強になったことがあるか。最も効果的と考えるものを次の選択肢(7項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に記入しましょう。

授業で習った語彙、文法、表現などを確認できて、理解を深めた

発音・アクセント・イントネーションは前よりきれいになった

新しい語彙、文法、表現などを覚えられた

日本語自体だけでなく、日本の文化や社会事情などへの理解を深めた

全体から見て日本語が上達している

特にない

その他： _____

問い4 ドラマ視聴の経験：ドラマ視聴を通して感じたり気づいたりすることがあるか。最も感じたり気づいたりするものを次に挙げた選択肢(6項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に記入しましょう。

内容がよく分からないから、あまり日本語の勉強に役に立たない

教室で習った日本語と違うところがある

知らない言葉を何度か聞いたり見たりしているうちに、自ずと覚えてしまう

日常生活スタイルは中国とだいぶ違う

特にない

その他： _____

問い5 ドラマ視聴の媒介：ドラマ視聴をする時に何を使っているか。最もよく使う媒介を次に挙げた選択肢(8項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に記入しましょう。

DVD VCD ビデオ CDプレーア MD カセットテープ
 パソコン(中国語または日本語のサイトからドラマをダウンロードして視聴する)
 その他： _____

問い6 ドラマ資料の入手手段：ドラマ資料をどうやって入手しているか。最もよく
 使う手段を次に挙げた選択肢(8項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に
 記入しましょう。

中国語または日本語のサイトからダウンロードする
 本学の図書館や日本語学部の資料室から借りる
 ほかの大学の図書館や研究機関から借りる
 国際交流基金の図書室から借りる
 友達(中国人や日本人)に借りる
 先生に借りる
 お店で買う
 その他： _____

問い7 ドラマ視聴の時間：1週間の平均の視聴時間を次に挙げた選択肢(10項目)
 から1つ選び、回答表に書いましょう。「1時間」は0時間以上～1時間を言い、
 1時間を含む。「2時間」は1時間以上～2時間を言い、2時間を含む。以下は同
 様)

1時間	2時間	3時間	4時間	5時間
6時間	7時間	7時間以上	特に一定しない	その他： _____

3 分析

ドラマ資料の内容については、アンケート調査の(一)によれば、三学年を合わせて38本ほどある(文末の資料を参照)。全体からして、現代の生活をテーマとしたものが多い。特に、若者の好みに合いそうなストーリーのもの(『1リットルの涙』や『たった一つの恋』)とか、最近で話題されたもの(『世界の中心で愛を叫ぶ』)が多い。ただ、質問の仕方自体は厳密でなかったため、上のようにドラマの名前を記入する場合の回答がある一方、「放送中のドラマ」「中島美嘉主演のドラマ」「大河ドラマ」というような回答も出ている。

現段階では、ドラマの内容についてはこれ以上詳しく追求できず、見当をつける程度にとどめておきたい。以下に、(二)の部分における7つの質問を中心に論を進める。

先に問い1について、二年生の場合を例にして、データのまとめ方を述べた上で、議論を展開していく。問い1「ドラマ視聴の目的や動機づけ」(前掲表3を参照)については、次の表4と表5にまとめることができる。

表4 前三位に選ばれた項目及び各項目の学習者数(問い1)

第一位(計5項目、12名):	4、	各3、	1、	(興味がある)1
第二位(計4項目、12名):	5、	4、	2、	1
第三位(計7項目、12名):		各2、	1、	(興味がある)1

表5 「前三位の延べ学習者数」における「各項目の延べ学習者数」の割合(問い1)

8.33%	2.78%	13.89%	19.44%	22.22%	27.78%	5.56%
-------	-------	--------	--------	--------	--------	-------

表4は、最も重要な目的や動機づけとして選ばれた前三位の項目(丸数字で示す)及びそれぞれの項目を選んだ学習者数(算用数字で示す)を示している。これを見ると、第一

位の目的や動機づけとしては、項目 を選んだ人は4名、 と を選んだ人はともに3名、 と (趣味がある)を選んだ人はともに1名ある。12名の学習者は全員第一位を記入しており、あわせて5項目が選ばれている。同じように見ていくと、第二位としては計4項目()と12名であり、第三位としては計7項目()と12名であるとなっている。つまり、延べ7項目()が第一位～第三位の目的や動機づけとして考えられており、 と だけが前三位の中に入っていない。

表5は、「各項目の延べ学習者数」(つまりその項目を目的として選んだ学習者の延べ人数)が、「前三位の延べ学習者数」(つまり第一位～第三位を選んだ学習者の延べ人数)における割合を示している。前掲の表4によれば、「各項目の延べ学習者数」としては、それぞれは 3名、 1名、 5名、 7名、 8名、 10名、 2名となる。また、12名の学習者は全員第一位から第三位まで記入しているため、「前三位の延べ学習者数」は36名となる。例えば、項目 については、延べ36名の学習者のうちに3名がそれを選んだので、 を目的や動機づけとした学習者の割合は8.33%となる。

問い2～問い6についても、以上の問い1と同じようにまとめることができよう(問い7については後述する)。また、三年生と四年生の場合についても、二年生の場合と同じようにまとめることができよう。詳細を省くが、結果は次の表6と表7のとおりになる。

表6 学年ごとにおける前三位に選ばれた項目と「各項目の延べ学習者数」

問い	学年	前三位に選ばれた項目と「各項目の延べ学習者数」
1	二	10 - 8 - 7 - 5 - 3 - (興味がある)2 - 1 [7]
	三	13 - 11 - 7 - 各6 - 各2 - (面白いから)1 [8]
	四	8 - 7 - 4 - 各3 - 2 [6]
2	二	10 - 6 - 各5 - 各3 [6]
	三	14 - 13 - 6 - 5 - 各4 - (中国語の字幕を見ないで日本語で考える)1 [7]
	四	7 - 6 - 5 - 4 - 3 - 1 [6]
3	二	9 - 8 - 6 - 5 - 4 - (コミュニケーションの種ができた)各1 [7]
	三	各12 - 11 - 7 - 6 [5]
	四	各8 - 5 - 3 - 2 [5]
4	二	11 - 8 - 6 - ⁽⁵⁾ 3 - 2 [5]
	三	15 - 13 - 12 - ⁽⁶⁾ 3 - 1 [5]
	四	9 - 8 - 6 - (日本人の発想や考え方はちょっとおかしい)1 [4]
5	二	10 - 9 - 3 - (ラジオ)各1 [7]
	三	12 - 11 - (MP3)各4 - 1 [6]
	四	6 - 5 - 3 - (MP3/MP4)各2 [5]
6	二	12 - 各7 - 2 [4]
	三	16 - 13 - 8 - 3 - (テレビ)1 [5]
	四	9 - 7 - 2 - 各1 [5]

(丸数字は項目の番号を、算用数字は「各項目の延べ学習者数」を、 []中は前三位に選ばれた延べ項目数を示す)

表7 学年ごとの「前三位の延べ学習者数」における「各項目の延べ学習者数」の割合

問い	学年	割合 (%)
1	二	27.78 - 22.22 - 19.44 - 13.89 - 8.33 - (表6を参照)5.56 - 2.78 [36]
	三	27.08 - 22.92 - 14.58 - 各12.50 - 各4.17 - (表6を参照)2.08 [48]

	四	29.63 - 25.93 - 14.81 - 各 11.11 - 7.41 [27]
2	二	31.25 - 18.75 - 各 15.625 - 9.375 [32]
	三	29.79 - 27.66 - 12.77 - 10.62 - 各 8.51 - (表 6 を参照)2.13 [47]
	四	26.92 - 23.08 - 19.23 - 15.38 - 11.54 - 3.85 [26]
3	二	26.47 - 23.53 - 17.65 - 14.71 - 11.76 - (表 6 を参照)各 2.94 [34]
	三	各 25.00 - 22.92 - 14.58 - 12.50 [48]
	四	各 30.77 - 19.23 - 11.54 - 7.69 [26]
4	二	36.67 - 26.67 - 20.00 - 10.00 - 6.67 [30]
	三	34.09 - 29.55 - 27.27 - 6.82 - 2.27 [44]
	四	37.50 - 33.33 - 25.00 - (表 6 を参照)4.17 [24]
5	二	38.46 - 34.62 - 11.54 - (ラジオ)各 3.85 [26]
	三	33.33 - 30.56 - (MP3)各 11.11 - 2.78 [36]
	四	33.33 - 27.78 - 16.67 - (MP3/MP4)各 11.11 [18]
6	二	42.86 - 各 25.00 - 7.14 [28]
	三	39.02 - 31.71 - 19.51 - 7.31 - (テレビ)2.44 [41]
	四	45.00 - 35.00 - 10.00 - 各 5.00 [20]

(丸数字は項目の番号を、算用数字は割合を、[]中は「前三位の延べ学習者数」を示す)

さて、表 6 と表 7 によってどんなことが読み取れるだろうか。アンケート調査の質問(表 3)にしたがって、各学年における共通点と相違点に注目しながら検討していく。

ドラマ視聴の目的や動機づけ(問い 1):

三学年を合わせて 7 項目が見られ、目的や動機づけの多様化が示されている。うち ~ の 5 項目がいずれの学年においても見られるように、学年を問わず同じような目的や動機づけをもつ学習者が大勢いる。

共通点:(a) ~ の 4 項目を合わせると、二年生では 83.33%、三年生では 75.00%、四年生では 81.48%となるように、いずれの学年においても文化や社会()への理解及び実用的な語学力()の養成を求めようとする学習者は四分の三かそれ以上になる。語彙・文法・表現()とか発音・アクセント・イントネーション()といった授業の中心内容になりやすい言葉自体の学習を目的とした学習者より、圧倒的に多い。(b)いずれの学年においても、「特にはっきりしない」が見られない。つまり、何も目的や動機を持たずに、ドラマ視聴をする学習者がいない。

相違点:(a) 二年生(12名)は 7 項目、三年生(16名)は 8 項目、四年生(9名)は 6 項目であるように、一人当たりの項目数は 0.58 - 0.50 - 0.67 となっている。項目数が少ないほど、人と一致する項目が減るという可能性を考えれば、目的や動機づけにおいては三年生の場合はやや個人差が大きいほうである。(b) は学年が上がるにつれて、13.89% - 27.08% - 29.63%と増えてくる。つまり、高学年になるほど聞く・話すといった日常のコミュニケーション能力に直接に影響する聞く・話す力を伸ばすということを目的とする学習者が増えてくる。(c) 「その他」として、二年生では「興味がある」(2名)とか、三年生では「面白いから」(1名)とかいう回答が見られるが、四年生では見られない。つまり、低学年ほど目的や動機づけが単純である場合がある。なお、(d) については、二、三年生ではそれぞれ 3 名と 7 名あるが、四年生では一名も見られない。先に述べたように、

四年生の 29.63%が聞く・話す力を伸ばしたいと見られるのに、なぜ発音・アクセント・イントネーションなどに対して全く無関心なのかがやや不思議である。

ドラマ視聴の方法（問い2）:

何もしないでドラマを見る（ ）という学習者がいずれの学年でも若干見られるが、二年生と四年生では全6項目（ ~ ）で、すべて一致している。三年生ではそれより一項目（ が1名）だけ多いというように、学年が違ってやり方がほとんど同じであると示されている。

共通点:(a) はいずれの学年においても19%~31%を占める。つまり、面白い語彙や表現をメモするというやり方が学年を問わず、最も一般的に使われている。(b) はいずれの学年においても大体10%前後で、それほど多くないほうである。つまり、90%ほどの学習者が中国語に訳すことをしていない。それはどんな手段（後述する問い6）で入手したドラマ資料でも、たいてい中国語の字幕つきであるからだろう。(c) 「特に何もしない」がいずれの学年においても12%~15%あるように、ドラマ視聴の方法を身につけていない学習者がどの学年においても少なからずいる。

相違点:(a) 二年生の場合において、 は群を抜いて（その他は20%以下）、最も多く31.25%である。つまり、ほぼ三分の一の学習者が一つだけの方法を使っていると見られる。これと違って、三年生では二項目（ ）と四年生では三項目（ ）はいずれも20%前後かそれ以上である。つまり、学年が上がるにつれて、同時に複数の方法を使って視聴する学習者が増えて、多様化してくる。(b) 学年が上がるにつれて、 が15.625% - 8.51% - 3.85%と減ってくるように、高学年になるほどドラマを見ながらその音声に倣って言うという学習者が少なくなっていく。なぜ、学年が上がるにつれて聞く・話す力を伸ばしたいと考えている学習者が増えてくる（問い1を参照）反面、こうした口をきかないという実態が存在しているだろうか。深く考えさせられるところである。(c) わずか1名(三年生)しかないながら、「その他」として、ドラマを見る時に中国語の字幕を見ないで日本語で考えるという回答が見られる。それ以外の学習者は字幕を見ながらという状態と推測されよう。先にも触れたように、現在入手できるドラマ資料がほとんど中国語の字幕がついている。字幕があって便利なわりには、学習者がそこに目を向けがちなのである。ドラマ資料自体にまだまだいろいろと問題がある。

ドラマ視聴の効果（問い3）:

何も効果を感じない（ ）という学習者が1名（二年生）見られるほか、三年生と四年生では全5項目（ ~ ）で、すべて一致している。また、二年生ではそれより1項目（ が各1名）多い。つまり、ほとんどの学習者がドラマ視聴の効果を認めており、しかも、たいてい同様な効果を得たと見られる。

共通点: は23%~30%を占めるように、一般的に、ドラマ視聴は文化や社会などへの理解を深めるには効果的である。前述した視聴の目的や動機づけ（問い1）に通じるもの

で、ドラマ視聴を通して学習者が目的どおりの効果を得たと見られる。(b) はそれぞれ 14.71% (二年生) 12.50% (三年生) 19.23% (四年生) であるように、いずれの学年においても、12% ~ 19% の学習者が授業で習った言語事項について、理解が深まった。ドラマ視聴はある程度授業の手助けとした役割を果たしている。(c) はそれぞれ 11.76% (二年生) 14.58% (三年生) 7.69% (四年生) であるように、それほど多いほうではない。つまり、全体から見て日本語が上達していると考えられる学習者が多くない。ドラマ視聴それ自体に限界があるということに起因するだろう。

相違点 : (a) 学年が上がるにつれて、 (17.65% - 25.00% - 30.77%) も (23.53% - 25.00% - 30.77%) も増えてくる傾向である。つまり、言葉自体の学習が進むにしたがって、文化や社会への理解が深まっていく。逆に、(b) は学年が上がるにつれて 26.47% - 22.92% - 11.54% と減ってくる傾向である。つまり、高学年になるほど発音・アクセント・イントネーションなどの学習にとって、ドラマ視聴が効果的ではなくなった。この実態は、前述した視聴の目的や動機づけ、及び視聴の方法に関連するのだろう。一方、(c) わずかながら、 と 「その他」 は二年生の場合 (それぞれ 1 名) にのみ現れるように、低学年ほど、ドラマ視聴がただ普段のコミュニケーションの話題をつくる手段だと思いつくか、ドラマ視聴を通して特に効果を感じないとかというような事情が現れがちのようである。

ドラマ視聴の経験 (問い 4) :

三学年を合わせて 5 項目見られるが、三、四年生では全 4 項目 () で、すべて一致している。二年生では、それより 1 項目 (と) 多い。つまり、いずれの学年においてもドラマ視聴の経験において、だいたい同じようである。

共通点 : (a) 三学年に共通して 34% ~ 37% を占める が最も多い。つまり、ドラマ視聴を通して知らない言葉を自然に覚えるようになるということが多い。(b) に次いで、 は三学年に共通して 25% ~ 27% を占めるように、学習者の四分の一ぐらいが日中両国の生活スタイルの違いに気がついた。注 5 と注 6 にも掲げたように、学習者によって文化や社会において日本と中国との違いなどに気づいたのである。つまり、そういった言葉以外の要素をも念頭に置く学習者が少なからずいる。

相違点 : (a) 学年が上がるにつれて、 は 20.00% - 29.55% - 33.33% と増えてくる。つまり、高学年になるほど、テキストにおける日本語と生の日本語との違いを感じられる学習者が多くなっていく。現代の生活をテーマとしたドラマ資料 (3 節冒頭を参照) を多く視聴するこそ得られる経験であろう。(b) は二年生の場合 (12 名中 2 名) にのみ現れるように、低学年ほどドラマを見ても何も気づかないという場合のことが現れがちである。先に述べた視聴の効果においてもほぼ同様な事情が存在する。ここから、既習語彙・文法・表現などにより限りのある段階の学習者にとって、効果のあるドラマ視聴の方法を身につけられないという問題が窺えよう。もっと視聴時間を増やしたり、もっと良さそうなドラマ資料を使ったりする必要があるだろう。

ドラマ視聴の媒介（問い5）：

三学年を合わせて延べ9項目見られており、DVD・VCD・ビデオ・CDプレーア・カセットテープ・パソコン（中国語または日本語のサイトからダウンロードして、保存・視聴する）・ラジオ・MP3・MP4など、語学の学習に使いそうな媒介が揃っている。今の時代こそ使用媒介が多様化して、時代的な特徴をもつ。

共通点：(a) 二年生7項目、三年生6項目、四年生5項目あるうち、 の4項目がいずれの学年においても見られる。つまり、全体からしてDVD・VCD・ビデオを使ったり、 中国語または日本語のサイトからダウンロードして保存したりして、ドラマ視聴をしている学習者が大勢いる。(b) そのうち、 と はいずれの学年においても27%～38%を占めており、それ以下の項目との間に11ポイント～23ポイントの開きがある。そして、この2項目を合わせれば、73.26%（二年生）・63.89%（三年生）・61.11%（四年生）とあるように、すべて学習者の五分の三以上を占める。つまり、DVD使用及び中国語や日本語のサイトからダウンロードするというのは、ドラマ視聴の媒介の主流となっている。(c) 三学年に共通して約11%を占めるVCD（）のほうは、主流的なではないが、比較的安定した媒介であろう。

相違点：(a) 二年生（12名）は7項目、三年生（16名）は6項目、四年生（9名）は5項目であるように、一人当たりの項目数は0.58 - 0.38 - 0.55となっている。つまり、二年生のうち、多様な媒介を試みようとする学習者がやや多い。(b) ビデオについては、二、三年生ではともに1名のみ（4%未満）で、四年生では16.67%と増えるが、それほど主流的な媒介ではない。最近、DVDやVCDが普通に売られ、インターネットを通して最新のドラマを字幕つきダウンロードできるようになるため、使用の不便さが存在する上内容的にも古いものばかりだというイメージを持たれたビデオの語学資料は、やや時代遅れのようで、今後も段々使用されなくなるだろう。

ドラマ資料の入手手段（問い6）：

三学年を合わせて6項目見られるが、二年生では全4項目（）が三、四年生とすべて一致している。三年生と四年生では、それより1項目（それぞれ と ）多い。つまり、いずれの学年においてもドラマ資料の入手手段として、だいたい同じようである。

共通点：(a) はそれぞれ42.86%（二年生）・39.02%（三年生）・35.00%（四年生）を占めており、いずれの学年においてもそれ以下の項目との間に約8ポイント～17ポイントの開きがある。つまり、中国語または日本語のサイトからダウンロードするということは、各学年の三分の一以上の学習者が使う手段であり、最も一般的である。自習室や学生寮でインターネットへアクセスできるという環境が整えられた現在こそ、そういった事情が可能になっただろう。(b) はそれぞれ25.00%（二年生）・31.71%（三年生）・45.00%（四年生）を占めるように、友達に借りるということは各学年の四分の一かそれ以上の学習者が使う手段で、 に次いで一般的である。一方、(c) はいずれの学年においても10%

未満である。学習者が本学の図書館や資料室を利用していないと見られるが、それは、そこに数の上からしても内容の上からしても、学習者に満足させるほどのドラマ資料がそろっていないからだろう。(d) はいずれの学年においても見られないように、先生にドラマ資料を借りる学生が一人もいないという状況が窺える。本学では、40歳前後かそれ以上の教師は五分の四以上であるのに対して、学習者の平均年齢は20.56歳(1節を参照)しかない。そうした年のギャップが存在したためか、私たちが見ているドラマは先生が持っていないだろうと思われたらしい。

相違点:(a) 学年が上がるにつれて、25.00% - 19.51% - 10.00%と明らかに減ってくる項目()がある。また、25.00% - 31.71% - 45.00%と明らかに増えてくる項目()がある。つまり、高学年になるほど、自ら店で購入しなくなるかわりに、友達に借りることが多くなる。それは、学年が上がるにしたがって、コミュニケーションのネットワークが形成されるようになり、情報交換の一つであるドラマ資料の交換が段々多くなるからであろう。(b) 「その他」として、三年生に1名「テレビで見る」という回答がある。大学が管理している「衛星資源」を利用して、NHKの国際チャンネルでドラマなどのテレビ番組を見るという場合である。このアンケートを行った時点では、NHKのテレビ番組を衛星放送で見られるということを知らない学生が多いため、1名のみとなったが、今後利用者がますます増えるだろう。

ドラマ視聴の時間(問い7):

一週間の視聴時間において、人によってバラつきが大きい。

表8 各学年における1週間の視聴時間

二年生(12名)	3(25.00%) - 各2(16.67%) - 各1(8.33%)
三年生(16名)	4(25.00%) - 3(18.75%) - 各2(12.50%) - 1(6.25%)
四年生(9名)	各2(22.22%) - 各1(11.11%)

(25%とは を選んだ学習者が二年生 12名 の25.00%を占めるということの意味する。以下同)

上の表によれば、以下の三点がわかるだろう。

(a) 学年ごとの状況: 二年生では、視聴時間が一定しない()という回答が1名あるほか、1時間・2時間・3時間・4時間・7時間・7時間以上という回答であり、それぞれは1名~3名程度である。最高は7時間以上()で、学習者の16.67%を占める(%は)。最低は1時間()で、学習者の8.33%を占める。三年生では、1時間~7時間という回答であり、それぞれは1名~4名程度である。最高時間(7時間)と最低時間(1時間)はともに12.50%を占める。四年生では、1時間・2時間・3時間・4時間・5時間・7時間以上という回答であり、それぞれは1名~2名程度である。最高時間(7時間以上)と最低時間(1時間)はそれぞれ22.22%と11.11%を占める。

(b) 最高時間と最低時間: (a)に述べたように、最高は7時間以上()で、三学年を合わせて4名あり、学習者(37名)の10.81%を占める。また、最低は1時間()で、合わせて5名あり、学習者(37名)の13.51%を占める。

(c)一週間の平均視聴時間：二年生では平均して 1.89 時間（「7 時間以上」2 名と「特に一定しない」1 名を含まない）、三年生では平均して 1.75 時間、四年生では平均して 2.14 時間（「7 時間以上」2 名を含まない）となる。四年生は最も多く、二年生はそれに次ぎ、三年生は最も少ないが、特に大きな開きが見られない。なお、 を入れて考えれば、二年生は 2 時間を超えるようになり、また、四年生はさらに多くなり得る。つまり、学習者全員の一週間の平均視聴時間は少なくても 2 時間となる。一日 20 分程度で、時間への投資が積極的であろう。

4. まとめ

本稿では、普段学習者がどのようなドラマ資料をどのようにして視聴しているかについて、ドラマ視聴の場合を取り上げて、アンケート調査によって調べようとしたものである。各学年の異同に注目して検討した結果、学年が上がるにつれて違いがあるものの、全体から見ると、ドラマを視聴する目的や動機づけ、方法、効果、経験、媒介及びドラマ資料の入手手段・視聴時間においては共通するところが多い。以下に主要な結論を繰り返す。

- ・視聴の目的や動機づけをもたない学習者がいない。目的や動機づけとされたもの（7 つ）のうち、5 つが三学年に共通する。特に、学習者の四分の三かそれ以上が日本の文化や社会への理解を深め、実用的な語学力を向上させたいことを目的としている。
- ・6 つある視聴方法のうち 5 つが三学年に共通しており、学年が上がるにつれて同時に複数の方法を使う学習者が増えてくる。そのうち、面白い語彙や表現をメモするというやり方が最も一般的で、いずれの学年でも学習者の 19～31% によって使われている。ただ、何もせずにドラマを見る学習者（12～15%）が若干見られる。
- ・ほとんどすべての学習者がドラマ視聴の効果を認めた（二年生に 1 名が否認）。6 つある視聴効果のうち、5 つが三学年に共通する。そのうち、日本の文化や社会などへの理解を深めたというのが、学習者（23～30%）によって一般的に認められた。ただ、日本語が全体として上達したと考える学習者がそれほど多くない（7～14%）。
- ・視聴効果に相通じて、ほとんどすべての学習者がドラマ視聴を通して何か気づいた（二年生に 2 名が否認）。5 つある経験のうち、4 つが三学年に共通する。そのうち、知らない言葉をいつの間にか覚えたと感じる学習者（34～37%）が最も多い。中両国の生活スタイルの違いに気がついた（25～27%）というのがそれに次ぐ。
- ・DVD・VCD・ビデオ・CDプレーア・カセットテープ・パソコン（ダウンロードして保存・視聴する）・ラジオ・MP3・MP4 など語学学習に使用可能なものが大勢揃っており（9 つ）、視聴媒介の多様化を示している。そのうち、前の三つ及びパソコンが三学年に共通する。特に、DVD 使用（30～38%）及び中国語や日本語のサイトからダウンロードして保存（27～34%）の二つは群を抜いて多く、主流的である。

- ・6 つある入手手段のうち、4 つが三学年に共通する。そのうち、中国語や日本語のサイトからのダウンロード（35～42%）及び友達からの借用（25～45%）の二つは、最も一般に使われている。
- ・1 週間の視聴時間において、平均して 2 時間ほどである。ただ、三年生は二、四年生より若干多く、2.14 時間である。一方、最低 1 時間、最高 7 時間以上というように、学習者の個人差が大きい。

ほかに、学習者のうち聞く・話す力を伸ばしたい一方で発音・アクセント・イントネーションなどに対して全く無関心なのはなぜか。なぜ、いずれの学年でも視聴の方法を身につけていない学習者（12～15%）が少なからずいるのか。ドラマ視聴自体の限界性があったとしても、どのようにして日本語学習を全体から促進させるか。こういった考えさせられる点が多くある。

なお、本稿は、教師は教室の外の日本語学習を指導するべきだと主張しようとしたものではない。むしろ、ドラマ視聴を例に教室外の日本語学習の状況にある程度把握する必要だと提案したい。インターネット時代となった現在では、語学学習の環境が無限に広がる可能である。そういう中で成長する学習者の状況を把握するほど、実際の教室活動もよりよく進めることができよう。

今後、まず、ドラマ視聴の場合に見られる学習者の個人差や、学年ごとに見られた異同の原因について検討したい。さらに、アニメ・映画・歌などその他の視聴活動について検討し、それぞれの働きや位置づけを考える。以上を含めて、今後の課題としたい。

注

- (1) 中国の大学の日本語専攻では、普通「基礎段階」(第一、二学年)と「高学年段階」(第三、四学年)という分け方をしている。たいてい、第二学年終了するまで、442 コマ(1 コマ=100 分)の学習時間を終了し、また 5600 ほどの語彙を習得していると要求されている(『基礎大綱』(1 ペ～4 ペ「三教学安排及教学時数 五教学要求」)による)。第四学年終了すなわち卒業する際に日本語に関わる様々な仕事をこなすほどの語学力をもつと要求されている(『高学年大綱』1 ペ～2 ペ「(三) 指導思想」による)。なお、本学では、2007 年 1 月現在では「基礎段階」においては 474 コマで、計 17 科目あり、「高学年段階」においては 360 コマで、計 22 科目ある(2007 年 1 月現在)。
- (2) 四年生は全員回答票を提出したが、二年生に 1 名と三年生に 2 名(ともに韓国出身者)は回答票を提出していない。なお、一年生は、調査当時(2006 年 11 月末)においては日本語学習暦がわずか二ヶ月半しかないので、調査の対象からははずすことにした。また、日本留学中の学生(三年生に 1 名と四年生に 2 名)を対象としなかった。
- (3) 表 2 に示されるように、上位 3 タイプの中に挙げられた視聴物として、二年生ではドラマ・アニメ・映画・歌の 4 つであり、三年生ではそれに教育系が加わって 5 つとなっており、四年生ではそれにニュース系・エンターテインメント系・教材系が加わって 7 つとなっている。学年が上がるにつれて視聴物の種類が多くなる傾向と見られる。なお、本稿では詳しく議論しない。別稿で考えたい。

- (4)(一)はもともと「よく視聴する順によって上位3タイプの視聴物を記入し、また、その内容や名前(例えばドラマならドラマの名前)を具体的に書きましょう」である。(二)については、問い1「上の3タイプの視聴活動をする目的や動機づけ：最も重要な目的や動機づけを次の選択肢(9項目)から3つ選び、順番をつけて回答表に記入しましょう」とあるところを「ドラマ視聴の目的や動機づけ：最も...」というように改めた。問い2～問い7についても同様に改めた。
- (5) 次の3つの回答である。(1)文化や社会は中国と違って面白いところがある。(2)すでに知っている日本のことを確認できた。(3)日本のドラマと中国のドラマの違いに気づいた。
- (6) 次の3つの回答である。(1)日本社会ではたくさん問題がある。(2)日本人の民族精神に感心した。中国人が見習うべきところもある。(3)語感がよくなった。

参考文献

- 渋谷勝己(2001)「教室での習得と自然な習得」野田尚史他編『日本語学習者の文法習得』大修館書店
 国立国語研究所 日本語教育部門(2005)『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究、マレーシアアンケート調査集計結果報告書』
- 林さと子(2005)「「学習環境」からみた日本語教育」『月刊言語』34(6月号)『特集 21世紀の日本語教育』
- 大和えり子(2006)「日本のドラマ視聴から広がった世界 マレーシアにおけるインターネット時代の日本語学習」第7回国際日本研究・日本語教育シンポジウム予稿『アジア太平洋における日本研究と日本語教育の変容と課題』

【資料】 以下にドラマの名前を掲げる。()中の漢数字はそれぞれ二年生、三年生、四年生が視聴したものを言う。

- (1)一学年だけ視聴する物 24本： 1リットルの涙(二) 砂の器(二) 白夜行(二) 漂流教室(二) 大奥(三) オレンジ・デイズ(三) 世界の中心で愛を叫ぶ(三) 翼が折れる天使(三) 眠れる森(三) 一つの屋根の下(三) 富豪刑事(三) 笑える恋はしたくない(三) 君はペット(四) 金田一少年記事簿(四) 14歳の母(四) セーラー服と機関銃(四) 鉄板焼の少女アカネ(四) トリック(四) ニュースの女(四) 不信の時(四) マイボス・マイイーロー(四) GT0(三) Good Luck(四) Slow dance(四)
- (2)二学年に共通して視聴する物 10本： 危険なアネキ(二/三) 結婚できない男(二/三) 花より男子(二/三) クロサギ(二/四) 電車男(二/四) 女王の教室(三/四) たった一つの恋(三/四) 魔女の条件(三/四) 大和撫子(三/四) Attention please(三/四)
- (3)三学年に共通して視聴する物 4本：
 東京ラブストーリー ドラゴン桜 野豚をプロデュース ロングバーケーション

(北京師範大学外国語学院日文系専任講師 リュウ・レイ)